

学校だより  
平成26年  
12月16日号

# はるにれ

海老名市立  
有馬小学校  
校長 宮原謙二

## 「耐性」について考える

海老名市では、全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。有馬小の算数に関する調査結果の中の《努力を要するところ》の一つに、「長い文章の問題の読み取りが苦手なため、①をもとに②を考えるような応用問題になると、最後まで取り組めない傾向が見られる。」があります。

このことをよく考えてみますと、子どもたちの生活の中で「我慢すること」や「大変だけれど続ける努力をする」等の経験が少ないために、忍耐力の低い子が増えてきているのではないかと考えられます。子どもたちはいずれ社会に出て、一人で生きていかななくてはなりません。その時に、苦しくても頑張ることのできる人間にたくましく育てていくことが、とても大切なのではないかと考えています。学校生活の中では、事故の心配から持久走大会がなくなり、5年生で毎年がんばって登っていた大山登山もいつしか姿を消してしまいました。ご家庭の中では、いかがでしょうか。

難しい問題であっても、答えは出ないながらも、あきらめずに最後まで取り組むことのできる子になって欲しいと思います。そういった活動を根気強く積み重ねていくことで、少しずつ「耐性」が育っていくのではないかと考えます。よりわかりやすい授業を研究していくことも大切ですが、授業を含めた教育活動の中で、子どもたちに「耐性」を育てるためいろいろな取り組みをしていくことが重要であると思います。ご家庭でも、お子さんの忍耐力について、話題にさせていただけたらと思います。



【野口英世の像(会津若松)】

## お世話になりました

12月15日(月)を最後に、ありまっ子がお世話になった宇田商店がお店を閉めることになりました。

「こども110番の家」を受けてくださっていたこと、登下校時に子どもたちを温かく見守ってくださったこと、そして、学区の町探検でも大変お世話になりました。また、地域の商店の要として、地域の方々の生活を支えてくださいました。長い間子どもたちを愛情深く見守ってくださったこと、地域の生活を支えてくださったことに心から感謝すると共に、これからも地域の中で子どもたちを見守ってくださればと思います。



長い間、本当にお疲れ様でした。子どもたちの代表と一緒に感謝の気持ちをカードに託しお届けしました。

## 努力が実った学年発表

音楽の時間に練習を重ねてきた学年発表がありました。下記の日程で行われました。

11日11日(火)2年生(グーチョコパー・村まつり・ありがとう・島唄)、12月4日(木)5年生(ゴジラ・ミッションインポッシブル・地球聖歌)、12月11日(木)4年生(もののけ姫・太陽のサンバ・Let It Go)

限られた時間の中で音楽専科の小野田先生や学年の先生方が力を合わせて、仕上げました。指揮に合わせて全員の気持ちが一つになった素晴らしい発表になりました。保護者の皆様には、たくさんの応援をいただきありがとうございました。



# 行事予定

12月	19日(金) 大掃除(5校時)
	22日(月) 給食終了 短縮日課4校時
	23日(火) 天皇誕生日
	24日(水) 2学期終業式
	25日(木) ~1月7日まで冬期休業
2015 1月	8日(木) 3学期始業式 集団下校訓練
	9日(金) 短縮日課4校時
	12日(月) 成人の日
	13日(火) 給食開始
	14日(水) 有馬中生職場体験
	15日(木) 有馬中生職場体験 縄跳び運動開始



## ありまの歴史5



〔大正3年学校体操の様子(有馬小学校)〕

### 大正の教育

— 百年周年記念誌より —

有馬小学校では、大正6(1917)年10月1日、暴風雨のために北の教室の屋根が幅4間半(約8m)長さ8間(約15m)にわたり全部壊れ、天井もすべて落ちるといふ大きな事故が起こったということです。

大正9(1920)年第1回の高座郡教育会中部7校連合競技会が開催され、第2次世界大戦期まで続けられ応援合戦も大変華やかでした。

この頃の成績のつけ方は、尋常科(現1~4年)では1~10段階であり、高等科(現5年~中2)では甲乙方式(甲乙丙丁)でつけられていました。遠足は、春3月と決まっていた5年生の時には鎌倉に行きました。まだ夜の明けない4時か5時頃学校を出発して、茅ヶ崎までは徒歩で、茅ヶ崎から東海道線に乗りました。6年生の時は東京へ日帰りをしました。戸塚まで4時間くらい歩いて行き、そこから電車に乗って行きました。修学旅行は、箱根へ一泊の旅でした。その時は、平塚まで徒歩で行き、紀ノ国屋という旅館に泊まりました。現在と比べるとずいぶん長い距離を歩いていたんですね。

## サイバー犯罪防止教室

12月10日(水)学校保健委員会が、5・6年児童と保護者対象で行われました。海老名警察署・少年補導員・スクールサポーターの方々にお出でいただき、「サイバー犯罪」についてその実態や怖さを教わりました。

「自分専用の携帯かスマホを持っている人は手を挙げてください。」という質問に、半数近くの子が挙手をしました。有馬小でもすでに、携帯やスマートフォンは、子どもたちの身近な持ち物になっています。有害サイトの閲覧、犯罪の被害に遭う危険性、ライン等SNSによるいじめなど、便利さの裏にある危険性を十分に理解し、様々な被害に遭わないようにしなければなりません。

大切なことは、家族で話し合っ「ルール作り」をしっかりと行い、スマートフォンや携帯の危険性について認識を共有すること。また、家族でお子さんとお話の時間を持って、コミュニケーションを大切にしていくことが一番大切なことだと思います。

